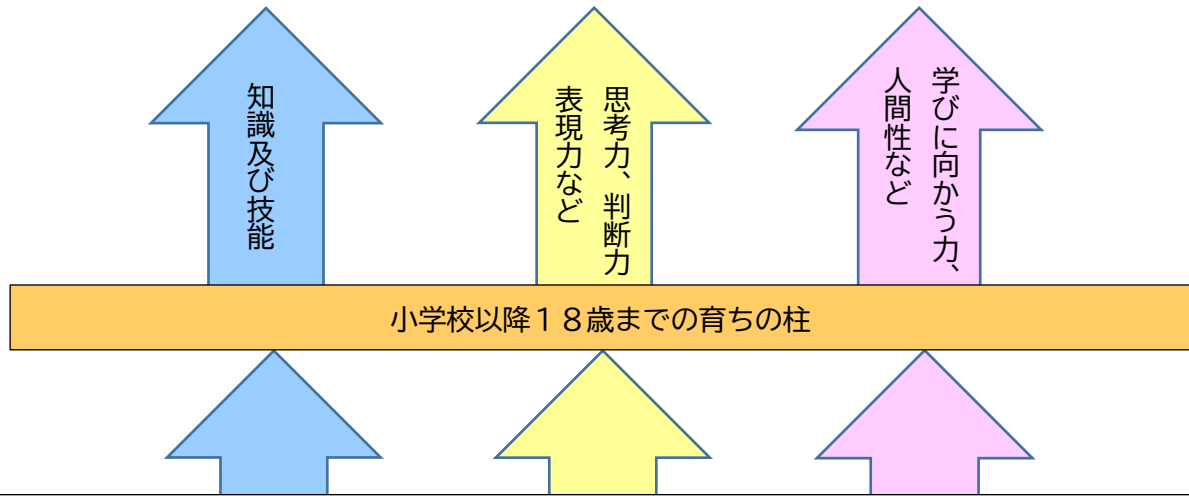


幼児期の育ちの方向性を示しているものなので、卒園までに完成するわけではありません。小学校へ入学し、教科等への授業へ移行する際に、幼児期に培った力が発揮され、適応しながら意欲的に取り組む姿につながっていくことを願って指導していきます。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
充実感をもってやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、自ら健康で安全な生活をつくり出す。	身近な環境に主体的に関わり、自分で行うために考え工夫する。やり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動する。	友だちと関わる中で、思いや考えを共有し、共通の目的に向けて協力し、充実感を持ってやり遂げる。	自分の行動を振り返り、してやよいこと悪いことが分かる。気持ちを調整し、友だちと折り合いをつける。きまりをつくり、守る。	家族や身近な人と触れ合う中で、役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつ。公共の施設を大切にするなどして、社会とのつながりなどを意識する。	物の性質や仕組みを感じ取り、多様に関わる。友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えに気付く、より良い考えを生み出す。	自然に触れ感動する経験を通し、好奇心や探求心をもって身近な事象へ関わる。自然への愛情や畏敬の念をもつ。身近な動植物を命あるものとして大切に關わる。	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ。また、それらの役割に気付く、活用し、興味や関心をもつ。	先生や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語に親しみ、豊かな言葉や表現を身に付け、相手の話を注意して聞き、伝え合いを楽しむ。	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方に気付く、表現する喜びを味わい、意欲をもつ。

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力などの基礎

学びに向かう力、人間性など

幼児教育